

資料3 - 1

官民チーム(ISUT)の試行の進め方について

- ・官民チームのイメージ（体制）と試行に向けた取組状況

- 災害対応の現場で様々な情報を収集し、検討に資するよう整理するには、膨大な労力と技術が必要
- 政府の現地対策本部等においても十分な体制ではなく、民間のノウハウ活用も不十分
- 災害情報ハブ推進チームメンバーを中心に、官民の情報収集・整理を行うチームを形成
- 今年度中にチームを形成、来年度から試行的に訓練等を実施し、役割や位置づけ、課題等を精査

実動機関

（自衛隊、消防、警察、海保等）



内閣府（防災）



自治体

（県・市町村）



ボランティア



医療機関



様々な組織が同じ情報を見て、
効率的、効果的な災害対応を行う

研究機関・ 学会



府省庁 （災対本部）

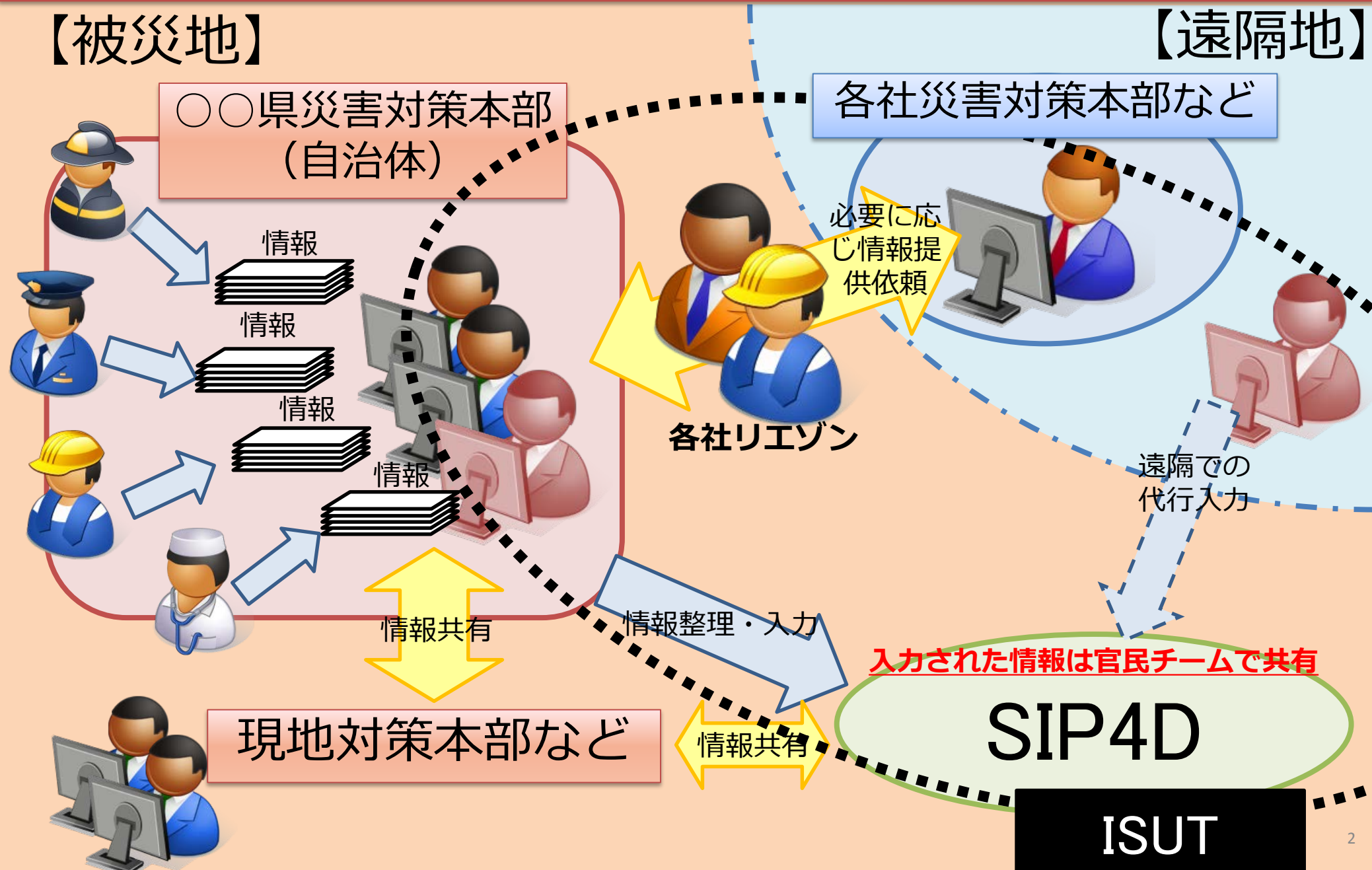


民間企業・ 団体



【被災地】

【遠隔地】



官民チームの試行に向けた取組状況と訓練想定 【資料3-1】

- 資機材、ロジ等の面も含めた訓練を月1回程度実施し、平成31年度から正式運用を目指す
- 実際に活動する場として想定される都道府県の防災訓練への参加による、実践的な訓練の実施

